



県HPからも閲覧可能です

## 1 計画的に作業を進めましょう

- 播種量、田植え予定日を考慮し、播種日を決めましょう（右表）
- 必要以上に育苗日数が長すぎると老化苗となります。
- あきたこまち、めんこいな、ゆめおぼこについては、播種量を乾籾250g程度として無加温出芽で20～25日間程度の育苗で、機械移植適性が確認されています。

表 苗質の目安

播種量（乾籾）	100g/箱	180g/箱
育苗日数	35日	25日
目標葉数	3.5葉	2.5葉
目標草丈	13～15cm	10～13cm

○高密度播種（無加温）についてはこちら <https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/53791>



育苗計画（中苗100g 播種の例）



## 2 適切な種子予措

### ① 浸種の水温・水量に注意を

- 種子消毒・浸種は屋内で行い、お湯で水温が15℃になるよう調整します。水温が10～15℃を確保できるように、消毒・浸種の開始は早くとも4月上旬からとします。
- 種子籾を籾袋に入れる際は、袋の50～60%を目処とし、浸種水温は10～15℃、浸種水量は種子容量の2倍程度（種子1kgに対し水3.5L）となるように努めます（水温が低いと発芽ムラや種子消毒の効果低下を生じます）。
- 複数の品種、消毒方法の異なる種子を同じ容器で浸種・催芽しないでください。

### ② 水の交換は適切に

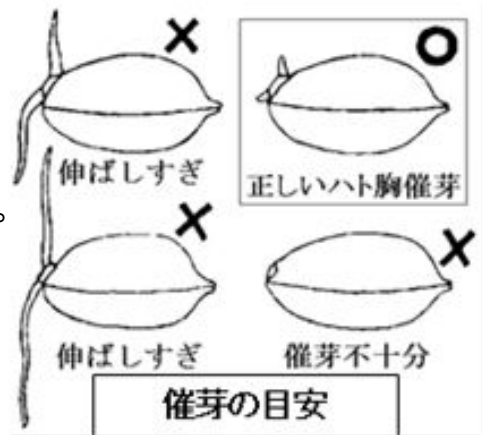
- 種子消毒の効果を高めるため、浸種開始後から2日間は水の交換をしません。浸種期間は、浸種水温10℃で6～8日程度、14℃で6日程度とし、種子消毒剤の安定した薬効を確保するため、水交換は2～3回とします。
- 浸種終了の目安は、籾殻を透かして胚が白く見えるようになる頃です。

### ③ 催芽の前には必ず湯通しを

- 催芽の芽の長さを揃えるために必要な作業です。袋内部の種子まで均一な温度になるよう、36～40℃の温水で必ず湯通しを行います。催芽温度は30～32℃で、芽の長さはハト胸程度（催芽長1mm）とします。

### ④ 衛生環境

- 種子予措を行う作業場所やその周辺を十分に清掃します。また、浸種・催芽時は容器にふたをします。容器等は使用前や品種、消毒方法が変わる毎に十分に洗浄します。



### 3 出芽・育苗期間の管理（中苗の場合）

#### ①出芽

○出芽長5mm程度を目標に確保したら、被覆資材を除去します。伸ばしすぎは徒長苗の原因となります。

**出芽後の再被覆は、もみ枯細菌病等の発生を助長するため、行いません。**

#### ②水管理

○かん水は早朝に行い、1回のかん水量を多く、回数を少なくします。育苗後半は、床土が白く乾いたり、葉が巻き始めた場合はかん水します。

#### ③温度管理

○播種から出芽までは約30℃、緑化期以降は25℃以上にならないようにします。移植1週間前頃からは、低温日でない限り、夜間もハウスを開放して外気に当て、硬い苗に育てます。

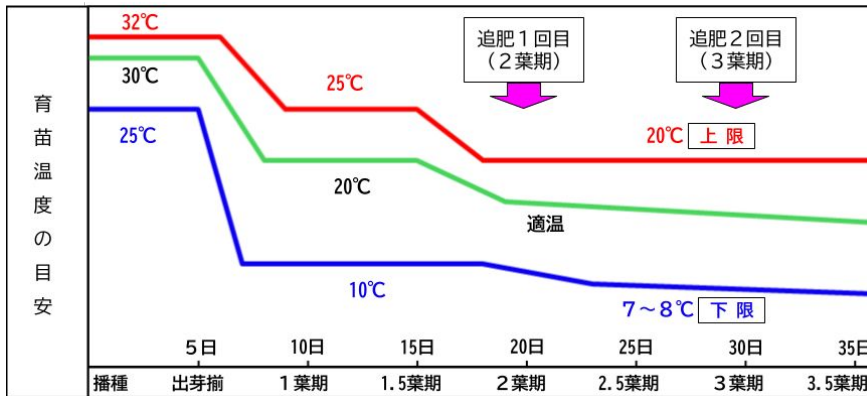
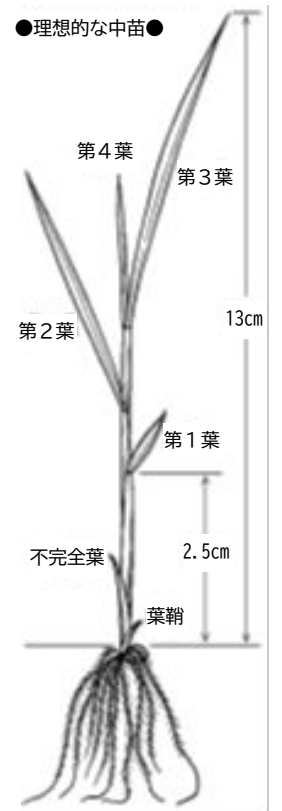


図 育苗温度の目安（中苗の場合）



※実寸ではありません

#### ④追肥

○追肥を行う場合は、窒素成分で箱当たり1g（2葉期と3葉期頃）施用します。

#### ⑤プール育苗の注意点（稚苗、中苗）

○湛水は本葉が1葉以上になった頃とし、1回目の湛水深は育苗箱の床土表面の高さまで（苗が冠水しないように）します。2回目以降は床土から1cm程度とします。

○苗が伸びやすいので、ハウス内の温度は慣行より低めに管理します。

### 4 いもち病の防除対策

○いもち病の発生は育苗施設からの発病・感染苗の本田への持ち込みが主な要因です。

○育苗期いもち防除は下記表の薬剤防除を必ず実施し、育苗施設からの発病・感染苗の本田への持ち込みを防ぎましょう。

○なお、タフブロックやエコホープDJ（生物農薬）を使用した場合は、生物農薬による種子消毒の効果が低下するため、ベンレート水和剤の播種時処理は行いません。

表 育苗期防除剤（苗いもち防除）

農薬名	使用時期	希釈倍数・散布量
ベンレート水和剤	播種時～播種7日後頃（かん注）	1,000倍 1000mL/箱
	播種時～播種14日後頃（かん注）	500倍 500mL/箱
ビームゾル	緑化始期（かん注）	500倍 500ml/箱

### 5 苗立枯病の防除対策

○耕種的防除対策として、清潔な資材を使用するなど、育苗施設の衛生を保ち、栽培基準に基づいた適切な温度管理と水管理を行います。

○苗立枯病菌は数種類あり、それぞれ防除薬剤が違います。

○リゾープス菌に対しては、発芽後の薬剤防除は効果が劣るので、ハウス内の高温に注意し、ベタ張りを長時間行わないようにしてください。

